



安全・安楽ながん治療を サポートします

こんにちは。がん化学療法院内認定看護師の小竹千秋と伊藤弥生です。

今、がんの治療は、大きく分けて手術、放射線、薬物療法の3つに分けられます。なかでも薬物療法は全身療法で身体全体に影響を与えます。私たちは、入院・外来問わず、抗がん剤治療が確実に、安全・安楽に行われることを目指し、活動を行っています。

活動内容は、がん化学療法を受ける皆さんやその家族に対して副作用の症状マネジメント、症状緩和のためのケア提供、セルフケアの支援、心理面、社会面でのサポートを実践しています。また、がん化学療法に関わる看護スタッフからの相談対応や指導をはじめ、医師や薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなどの連携のためのパイプ役を担っています。



外来では抗がん剤の副作用である手足症候群に対して医師、薬剤師、看護師でチームを組み、治療前から手足のケアについて指導し、治療中も日常生活に支障が出ないようにサポートしています。

これからも皆さんの病気や治療に対する思いに寄り添いながら、看護を実践していきたいと思っています。がん治療中で困っていることなどがあれば、気軽にお申し出ください。

碧南の歴史へのいざない

No.16 2度の大地震、そして終戦

前号に引き続き戦時中の出来事を紹介します。終戦の少し前、2度の大きな地震がこの地方を襲いました。昭和19年（1944年）12月7日13時36分に起きた「東南海地震」と、その37日後の昭和20年（1945年）1月13日3時38分に起きた「三河地震」です。

どちらもかなり強い揺れでしたが、ほとんどの人が家で寝ている早朝に発生した三河地震の方が、人や建物に大きな被害をおよぼしました。特に家屋の倒壊で下敷きになった人が多く、東南海地震で持ち堪えた建物も三河地震で全壊するなど悲惨な状況となりました。



△「明治村 根崎十字路口」
（市所蔵）

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

救助には、防空・消防のために地域で組織された警防団のほかに、傾いた家の復旧や臨時の住宅を建てる大工などで編成された「工作隊」が、東南海地震で4日後、三河地震では3日後から派遣されていたという記録があります。被害状況を記した資料もありますが、当時は戦時中ということもあり、これらについての報道は制限されていました。そして、三河地震発生から数か月後に終戦を迎え、この地方の人たちは、2つの地震と戦後の復興に力を入れていくことになりました。



△「明治村 米津橋」（市所蔵）